

神奈川県在住生活をめぐる状況について

(県内の人口移動分析)

○第3回神奈川県住宅政策懇話会において委員から頂いたご意見（抜粋）

コロナによる人口移動への影響は、プッシュ要因とプル要因の両方あると思う。横浜、川崎から県内の地方への移動など、県内の人口移動の動きが分かれば確認したい。

○令和元年から令和2年の県内人口移動の主な動き

- ・川崎・横浜地域から県央地域及び湘南地域への転出超過が増加。
- ・三浦半島地域・県西地域としては、大きな変化はない。
- ・東京都から県内全地域に対して転入超過が増加。（県央地域は転出超過が減少。）

○第4回神奈川県住宅政策懇話会において委員から頂いたご意見（抜粋）

何歳くらいの家族構成の方が動いているのか確認したい。

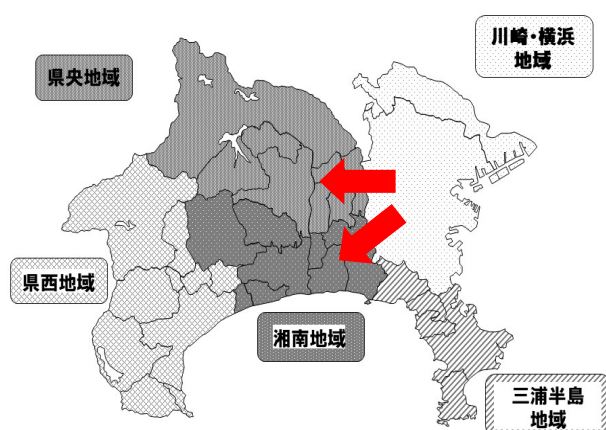
○主な特徴

○県内における主な動き

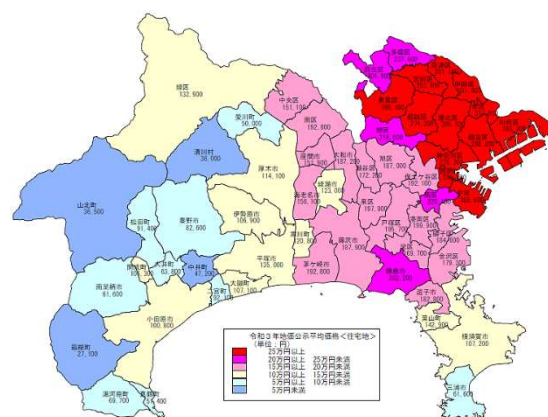
- ・川崎・横浜地域は、県内各地域からの20代の転入超過が多い傾向だが、令和元年と令和2年を比較すると、県央地域及び湘南地域からの転入超過は減少。
- ・県央地域及び湘南地域において、川崎・横浜地域からの子育て世帯（30～40代及び10歳未満）の転入超過が増加。

○東京都との関係

- ・県内各地域から東京都への20代の転出超過が多い傾向だが、令和元年と令和2年を比較すると、どの地域も減少しており、特に川崎・横浜地域の減少が大きい。
- ・県内各地域において、東京都からの子育て世帯（30～40代及び10歳未満）の転入超過が増加。



(参考) 令和3年度地価公示（市町村別平均価格）



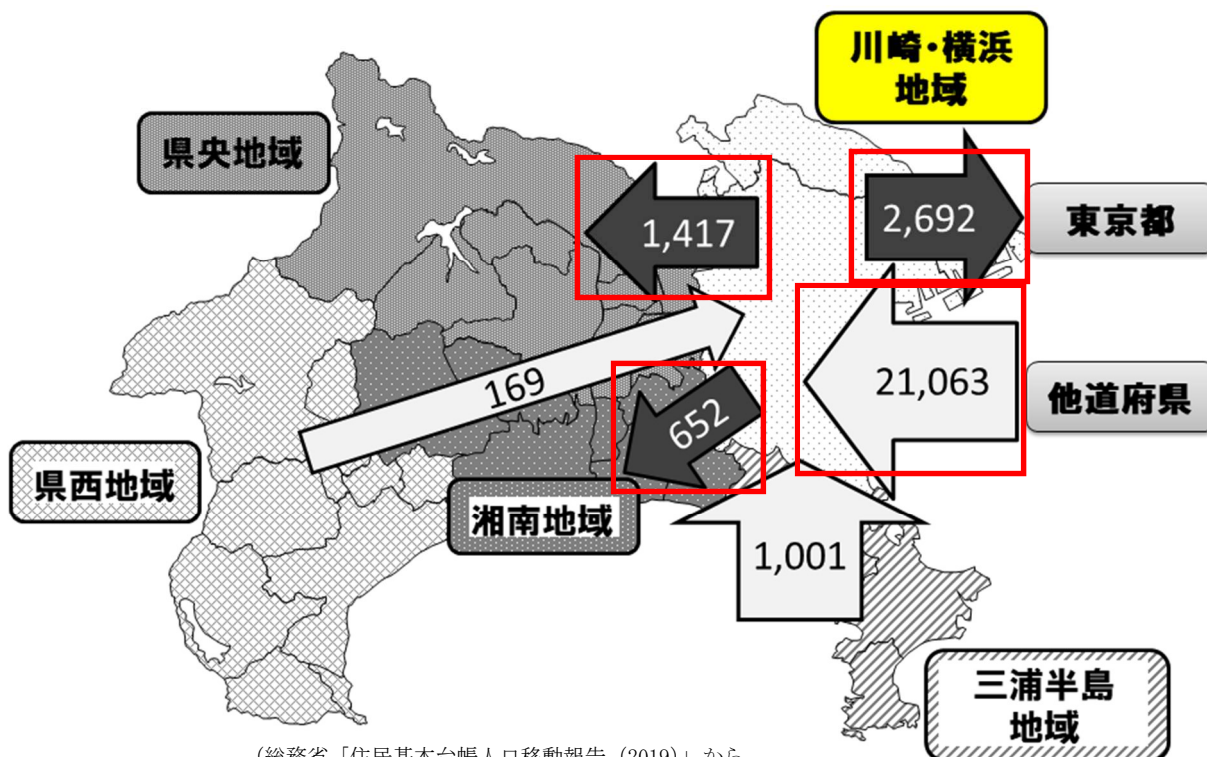
地域別人口移動の状況【川崎・横浜地域】

令和元年及び令和2年の比較

- ・県央地域及び湘南地域への転出超過が増加。
- ・東京都への転出超過が転入超過へ転じている。
- ・他道府県からの転入超過が減少。

○令和元年

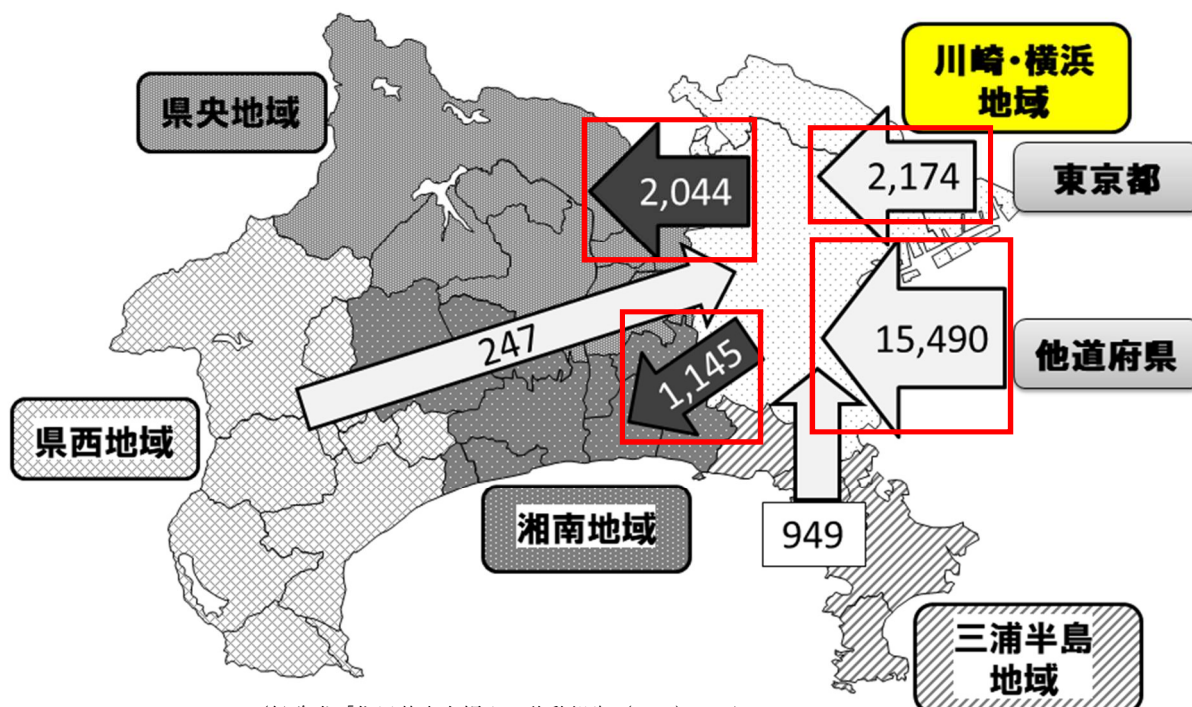
(単位：人)



(総務省「住民基本台帳人口移動報告(2019)」から
内閣官房が再集計したデータより作成)

○令和2年

(単位：人)



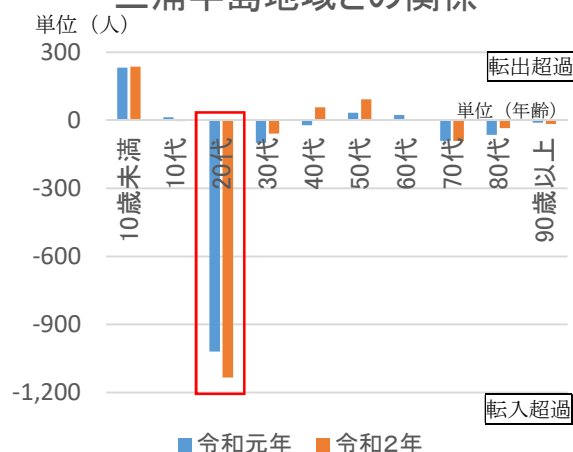
(総務省「住民基本台帳人口移動報告(2020)」から
内閣官房が再集計したデータより作成)

年齢別の移動状況【川崎・横浜地域】

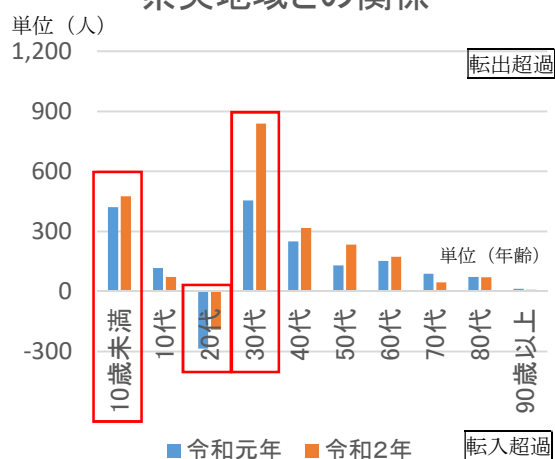
主な特徴

- ・ 県内各地域からの 20 代の転入超過が多いが、湘南地域からは 1 年間で半減。
- ・ 県央地域及び湘南地域への 30 代及び 10 歳未満の転出超過が多く、県央地域への 30 代の転出超過は倍増。
- ・ 東京都への 20 代の転出超過が多いが、半減。一方で、30 代の転入超過が増加。

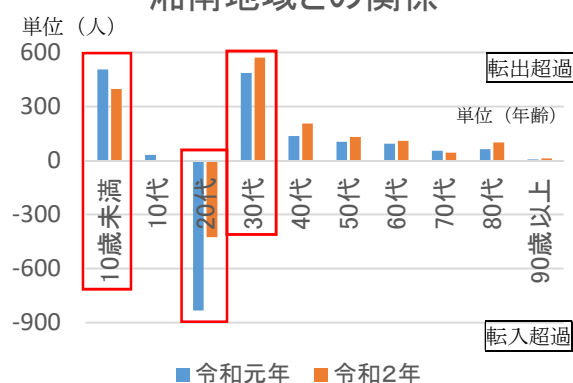
三浦半島地域との関係



県央地域との関係



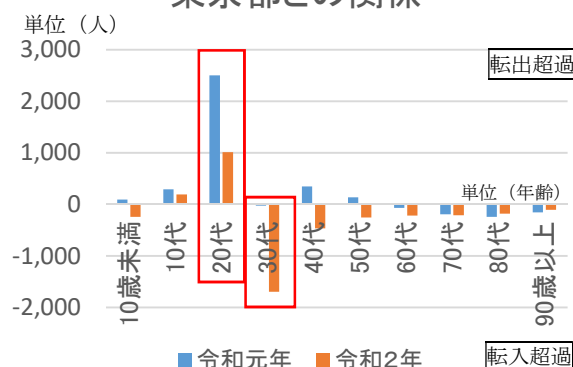
湘南地域との関係



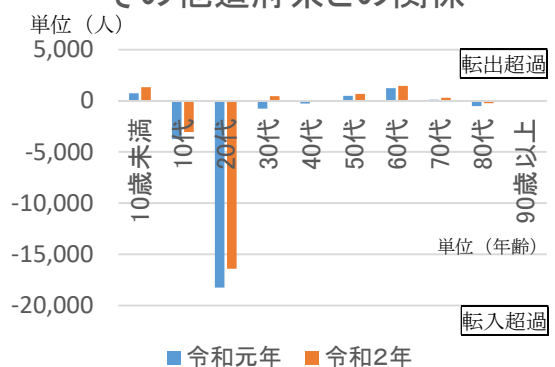
県西地域との関係



東京都との関係



その他道府県との関係



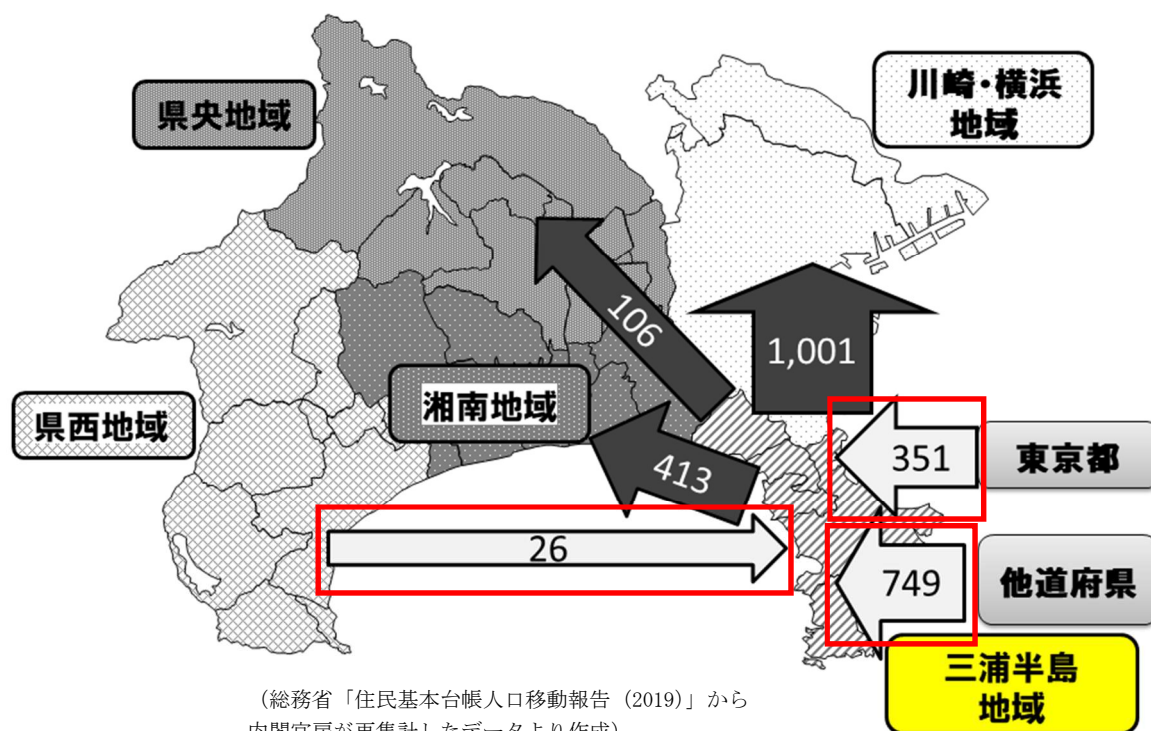
地域別人口移動の状況【三浦半島地域】

令和元年及び令和2年の比較

- ・ 三浦半島地域としては、大きな変化はない。
- ・ 県西地域からの転入超過が転出超過へ転じている。
- ・ 東京都からの転入超過が増加。
- ・ 他道府県からの転入超過が減少。

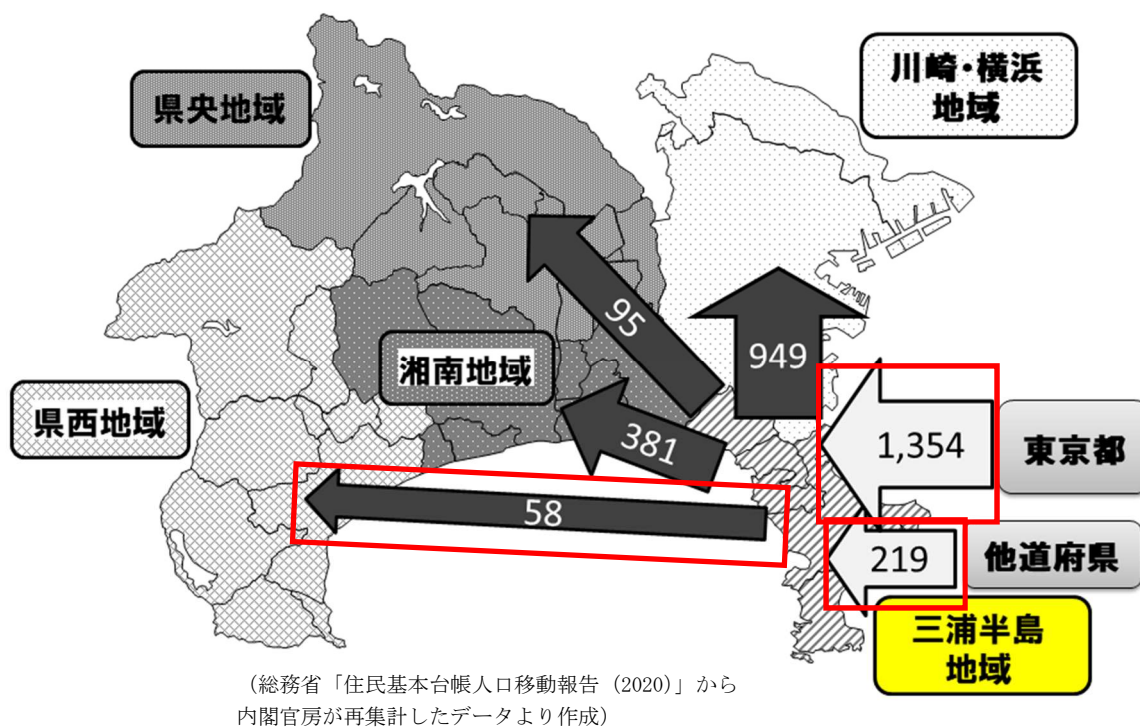
○令和元年

(単位：人)



○令和2年

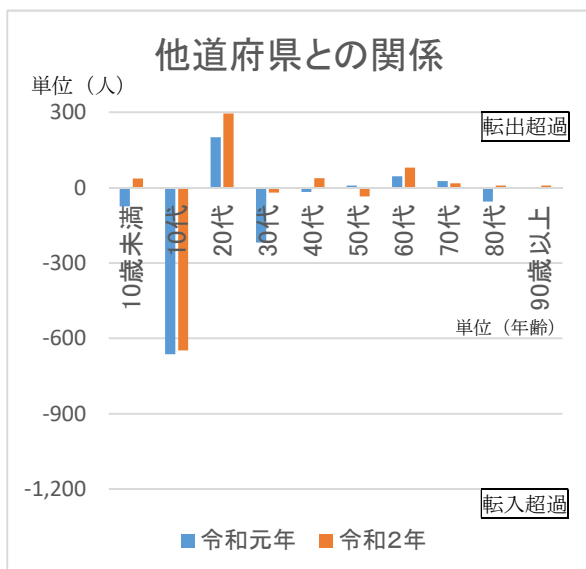
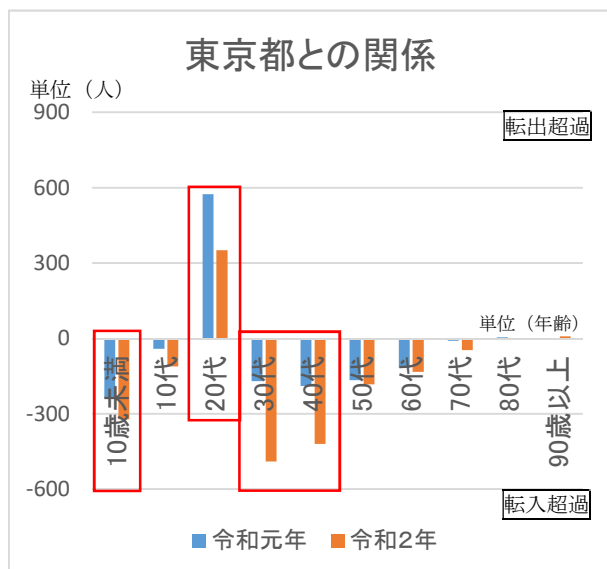
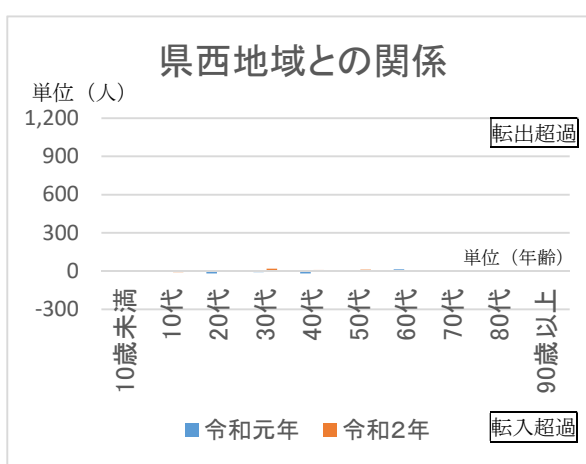
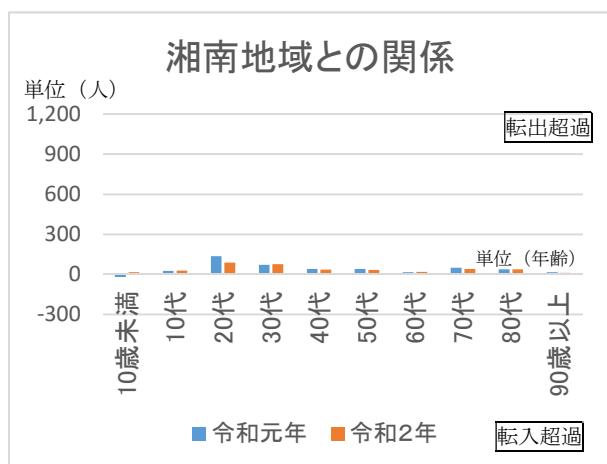
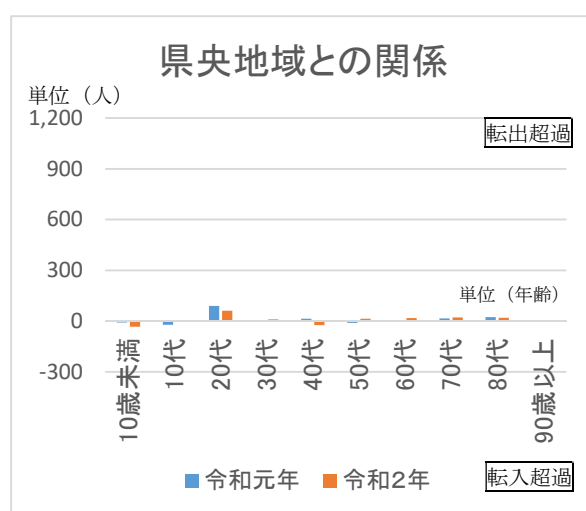
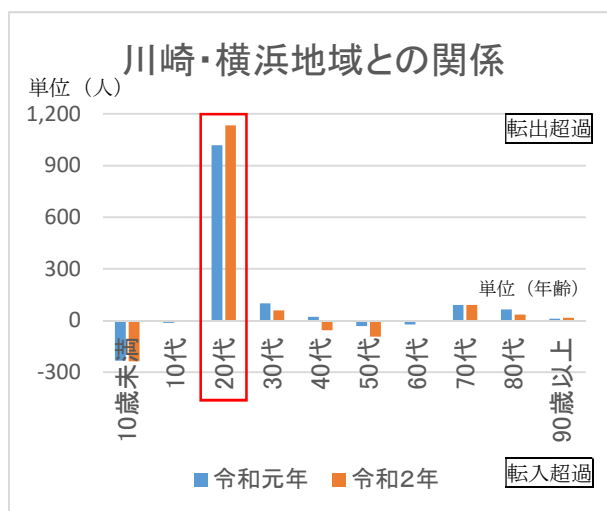
(単位：人)



年齢別の移動状況【三浦半島地域】

主な特徴

- ・ 川崎・横浜地域への20代の転出超過が多い。
- ・ 東京都へも20代の転出超過が多いが、1年間で減少。一方で、30～40代及び10代未満の転入超過が増加。



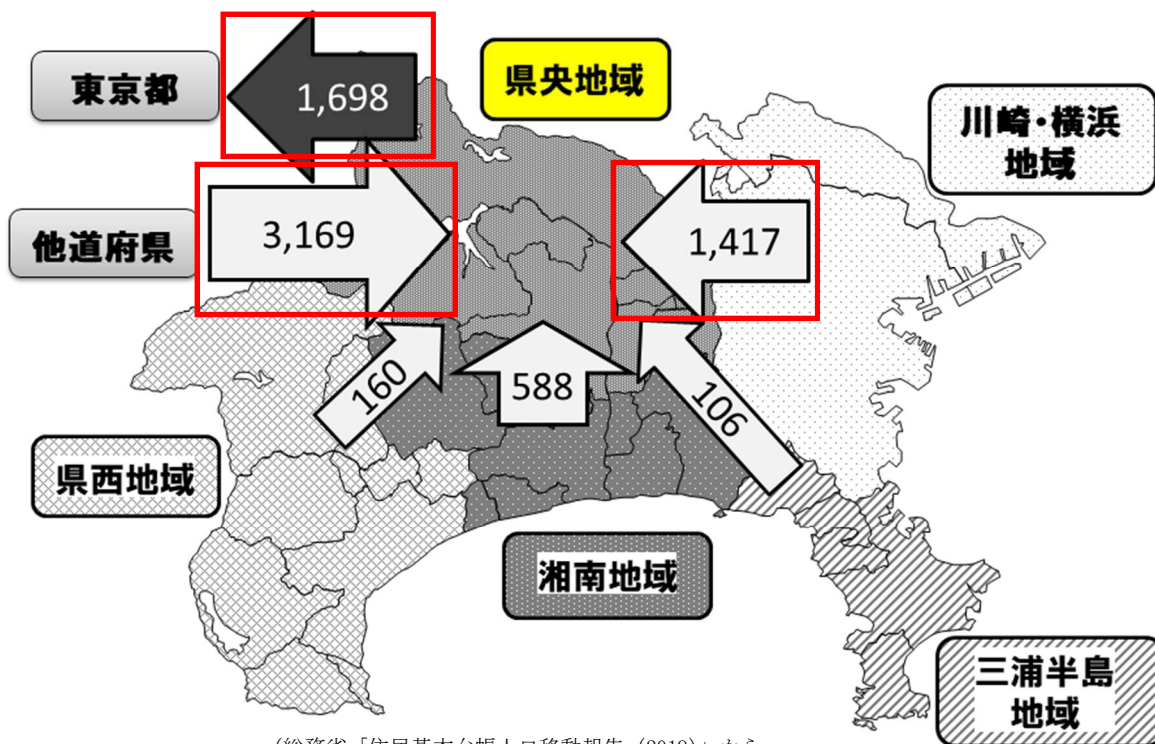
地域別人口移動の状況【県央地域】

令和元年及び令和2年の比較

- ・川崎・横浜地域からの転入超過が増加。
- ・東京都への転出超過が減少。
- ・他道府県からの転入超過が減少。

○令和元年

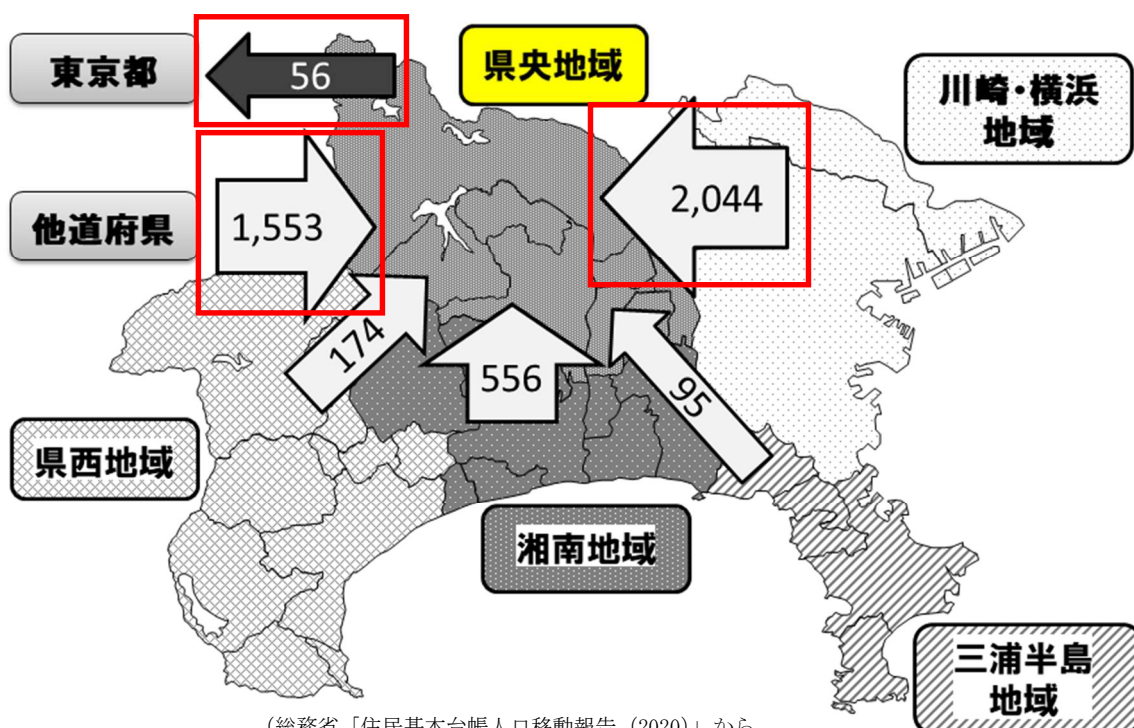
(単位：人)



(総務省「住民基本台帳人口移動報告(2019)」から
内閣官房が再集計したデータより作成)

○令和2年

(単位：人)

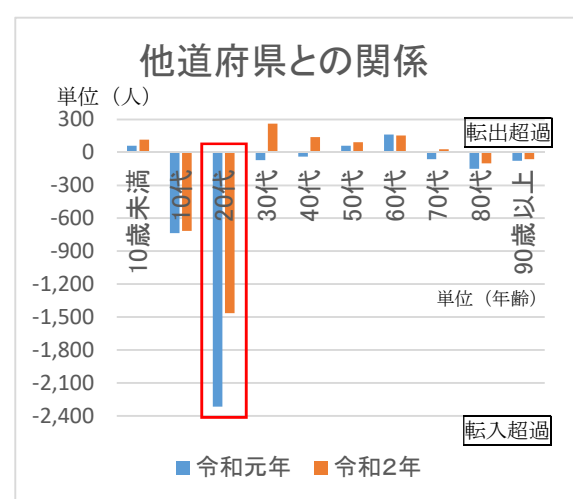
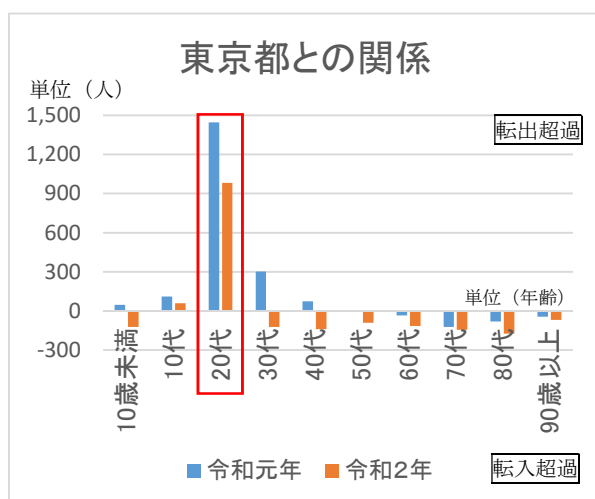
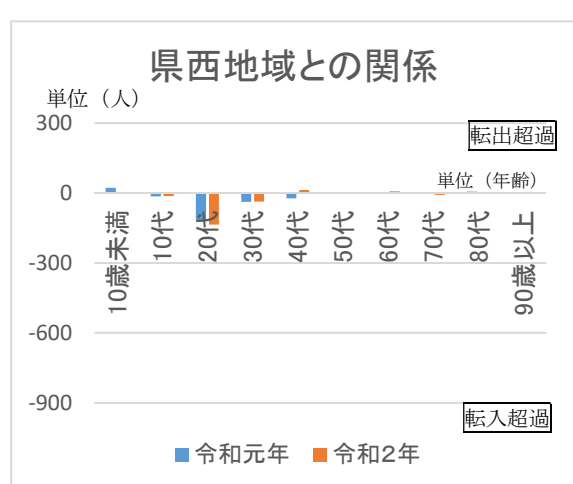
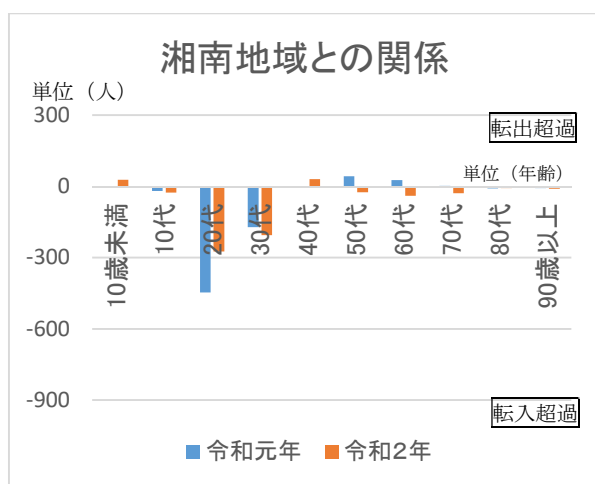
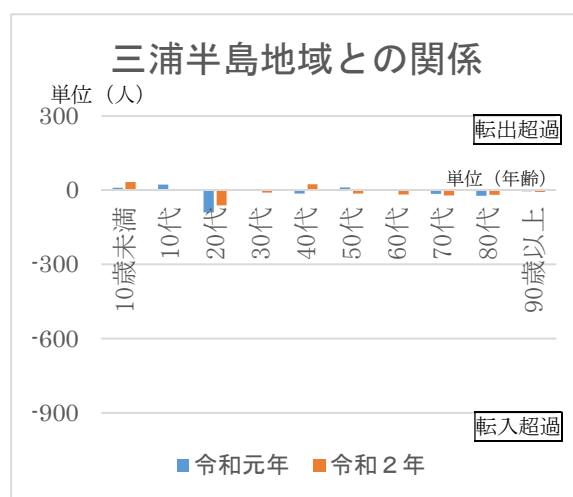
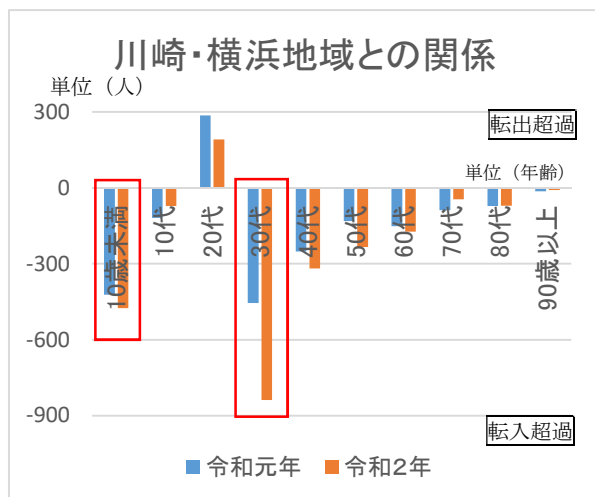


(総務省「住民基本台帳人口移動報告(2020)」から
内閣官房が再集計したデータより作成)

年齢別の移動状況【県央地域】

主な特徴

- ・川崎・横浜地域からの30代及び10歳未満の転入超過が多く、1年間で増加。
- ・東京都への20代の転出超過が多いが、減少。
- ・他道府県からの20代の転入超過が、減少。



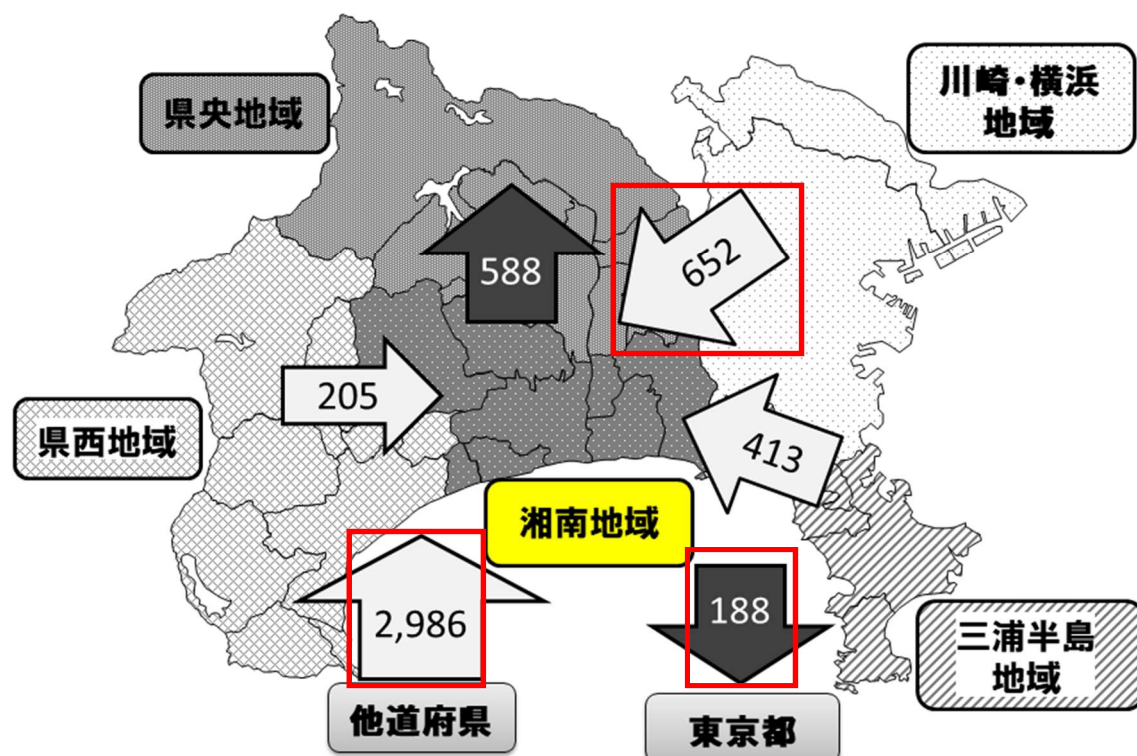
地域別人口移動の状況【湘南地域】

令和元年及び令和2年の比較

- ・川崎・横浜地域からの転入超過が増加。
- ・東京都への転出超過が転入超過へ転じている。
- ・他道府県からの転入超過が減少。

○令和元年

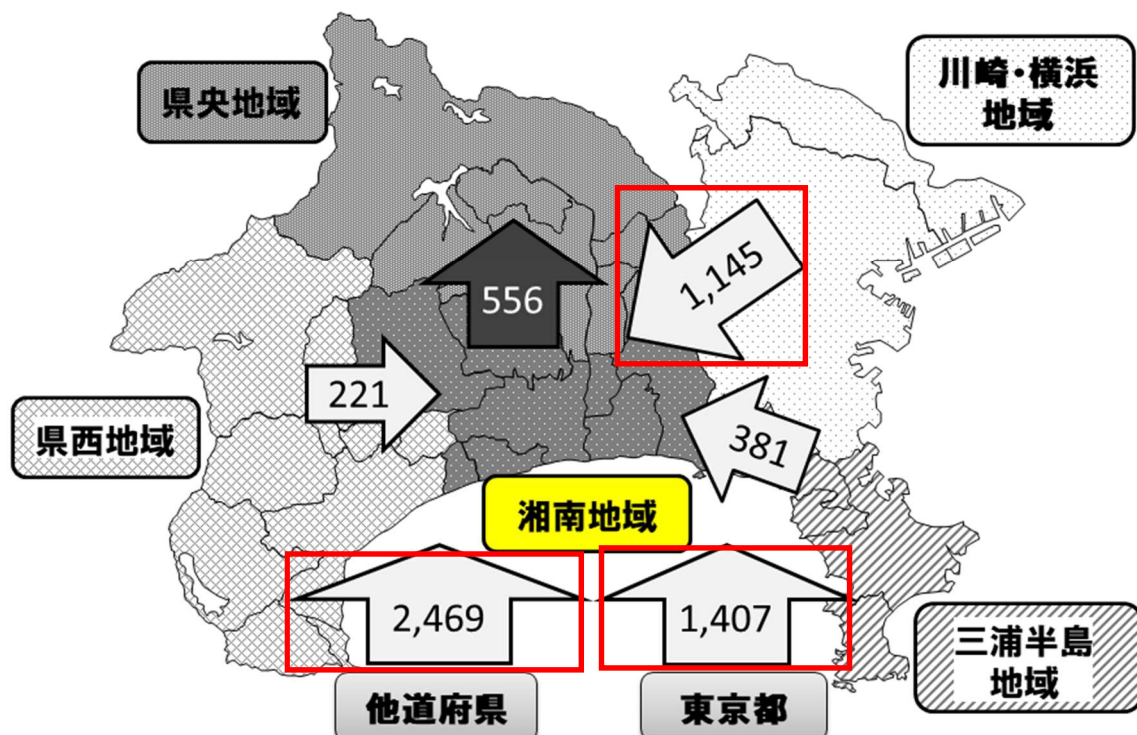
(単位：人)



(総務省「住民基本台帳人口移動報告(2019)」から
内閣官房が再集計したデータより作成)

○令和2年

(単位：人)

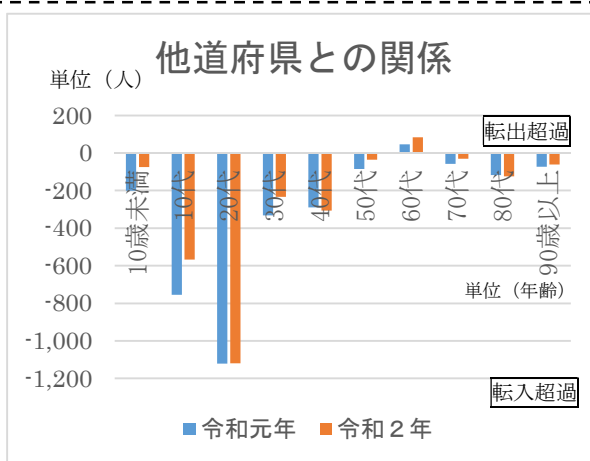
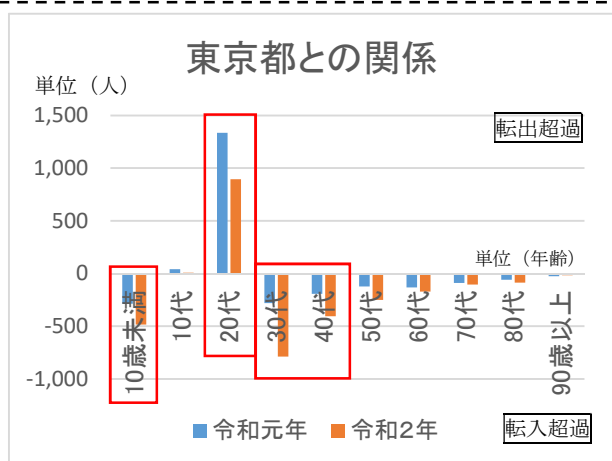
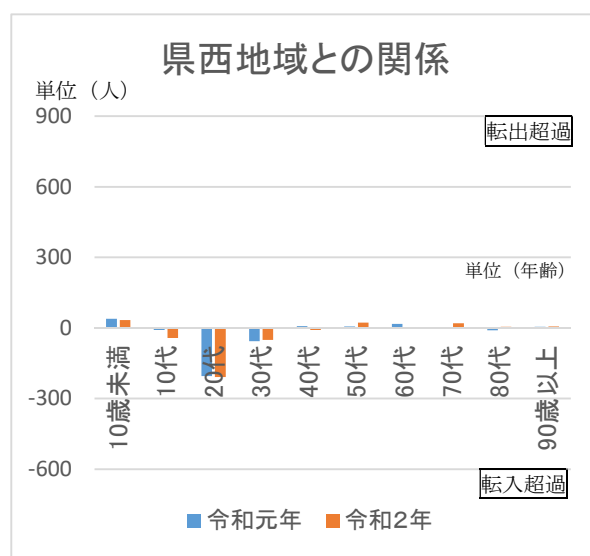
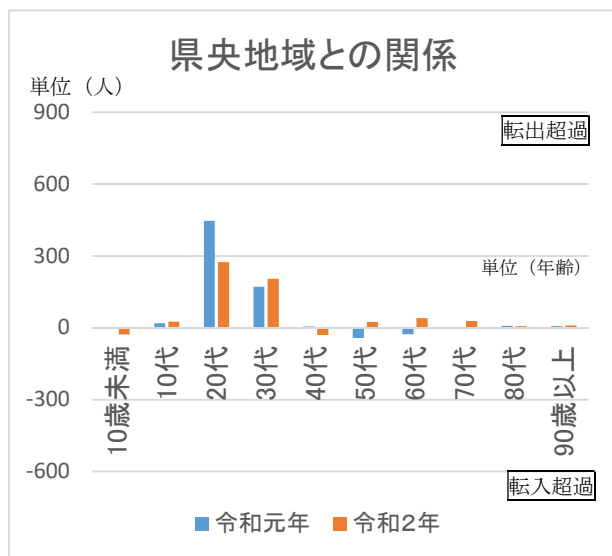
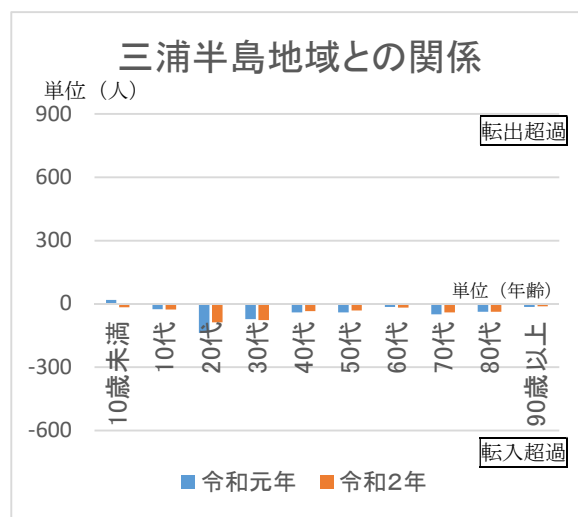
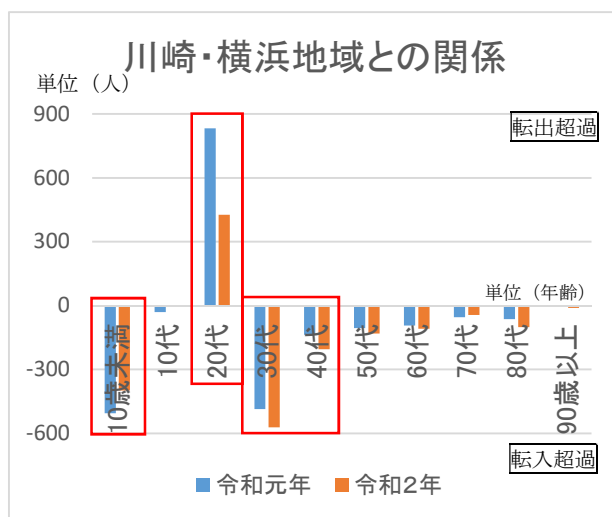


(総務省「住民基本台帳人口移動報告(2020)」から
内閣官房が再集計したデータより作成)

年齢別の移動状況【湘南地域】

主な特徴

- ・川崎・横浜地域への20代の転出超過が多いが、1年間で半減。一方で、30～40代10代未満の転入超過が多く、微増（30～40代）。
- ・東京都へも20代の転出超過が多いが、減少。一方で、30～40代及び10歳未満の転入超過が増加。



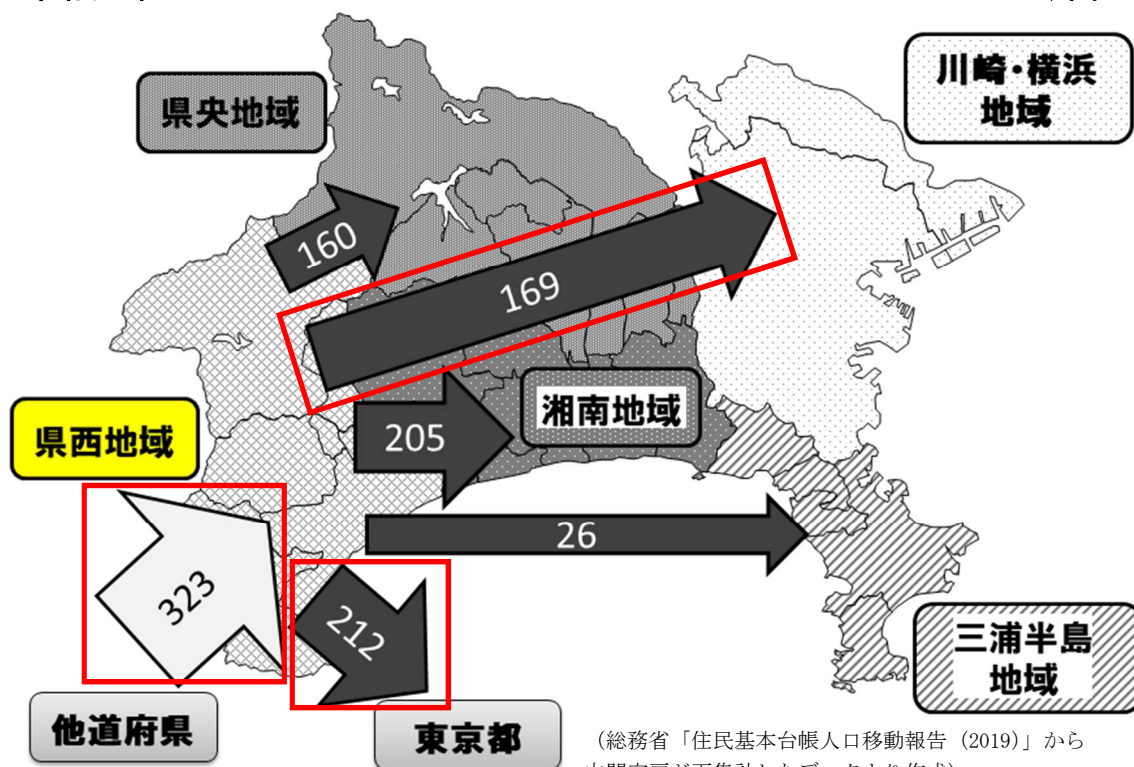
地域別人口移動の状況【県西地域】

令和元年及び令和2年の比較

- ・県西地域としては、大きな変化はない。
- ・川崎・横浜地域からの転出超過が増加。
- ・東京都への転出超過が転入超過へ転じている。
- ・他道府県からの転入超過が減少。

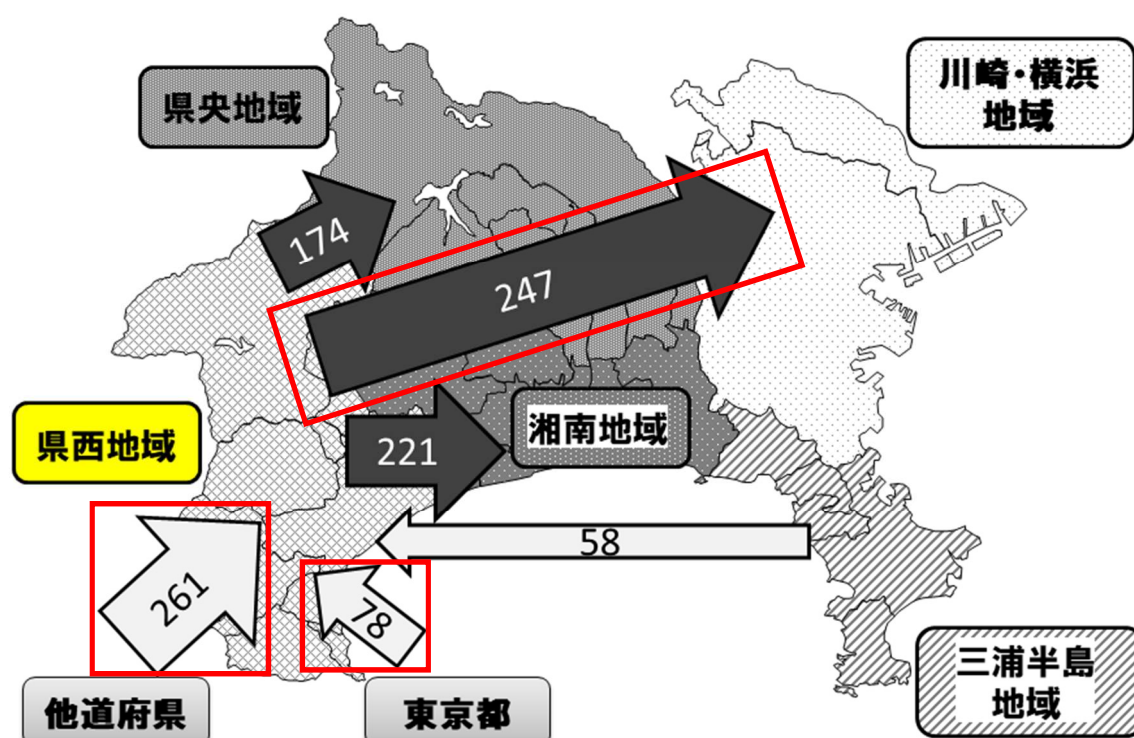
○令和元年

(単位：人)



○令和2年

(単位：人)



年齢別の移動状況【県西地域】

主な特徴

- ・ 川崎・横浜地域への20代の転出超過が多く、1年間で増加。
- ・ 東京都へも20代の転出超過が多いが、微減。一方で、30～50代及び10歳未満の転入超過が増加。

